

塩路隆子

花衣

北
漢
社

PDF 制作

俳誌の salon

寺田屋に灯らぬ間あり北風荒ぶ

雨晴れて湿原百花水鶏鳴く

流離めく梅雨雲低き佐渡を指し

白洲あり凍てて陣屋の責め道具

灯影負ふをんな座ここにしめじ汁

かまつかやすたれ港の廓路地

雁渡し奈良七口の常夜灯

少年に自立のきざし独楽まはる

ま
む
し
草
自
負
の
健
脚
笑
ひ
を
り

風
化
て
ふ
責
め
冷
ま
じ
き
白
杵
仏

吹雪きては鎧ふものなし狩場の碑

一子相伝茶筌長老の鯉のぼり

大峰に雲の一朵やけらつき

雪となる宇陀のふかきに遠砧

からゆきのくもり鏡や梅雨最中

火山灰ぐもり天草びとは諸を挿す

返り花ひとつ知覧の特攻碑

男雛より女雛たくまし園児劇

十月の歌や橋行く中之島

産声を待つや産科の天使魚

旅に組む画架や晩夏の上高地

文教区なるを恋猫はばかり

橋越えて鱧食べに行く法善寺

ほどほどに棲みたる魔性シャワー浴ぶ

梅雨ふかき壁にかかげしゴツホの暉

終章になほ一波乱明易し

尊
嚴
死
て
ふ
死
に
執
し
火
蛾
の
夜

麦
茶
炊
き
朝
の
は
じ
ま
る
大
家
族

長
き
夜
の
記
憶
に
遠
き
微
積
分

隙
間
風
狂
女
奈
落
に
出
を
待
ち
ぬ

耶蘇島を売り出す噂青蜜柑

久女ともなれず紐解く花衣

ドソファソの夢より覚めし蝶の昼

自分史の草案浮かぶ心太

梅雨冷の指先まどふプツシユホン

カロリーを言ひつ乙女の桜餅

万愚節模造ダイヤの光る指

暗転の開演ベルに扇子止む

燐
寸
い
ま
擦
ら
ば
芒
の
山
は
火
に

怒
濤
聞
く
大
王
崎
の
冬
銀
河

椿咲くひとつを供華に海女の墓

凍つる夜の沖またたくは伊良湖の灯

寒雁の棹たてなほす荒岬

潮風の凍にかざして木偶扇

初旅を志摩へはやりて禁煙車

濤音に余寒なほある間垣邑

行商の角巻深し無人駅

春炉焚く御幸由来の老語り

ゆくりなき春霰熊野古道撃つ

A型の血は母ゆづり雪を搔く

シリーズ・現代俳句21

花衣 (はなごも)

平成8年5月1日 発行

著者 塩路 隆子

発行者 小島 哲夫

発行所 北 溟 社

〒169 東京都新宿区高田馬場4-1-6-305

電話 03(5389)0430

FAX 03(5389)0440

印刷 内外文字印刷株式会社

製本 松栄堂製本

定価2600円(本体2524円)
